

平成30年度版 改善計画

学校名： 甲斐市立竜王北中学校

No	項 目	現状と課題	H31年度に目指すべき状態	①H30年度に実施する内容 ②H31年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	○過去の資料等は良く整理され、保存されている。担当が変わっても提案文書作りは比較的容易である。しかし、会議が長引くことが多く、勤務時間を超過することが少なくない。	○校内分掌の資料が紙ベース、PCベース共に整理されている状態を継続する。会議等も1時間前後で終了できるように資料を早めに配付し、提案時間や終了予定時間を明示する等、効率化を図る。	①会議の時間を予め設定し、提案を効率化して職員会議等1時間前後で終了できるようにする。 ②職員会議において内容を元に終了時間を目安として職員に伝える。連絡事項については、掲示板もしくは朝の打合せを利用する。	
2	学校行事の負担軽減	○1つの行事の中でいろいろなねらいが混在しているため、準備にかかる時間と労力が負担を増している。	○3年間を見通した計画を立て、各行事のねらいを精選し、内容のスリム化、業務の効率化を図る。	①行事が終わるごとに、時間をおかずに反省をし、課題を明確にする。行事には常に「なぜ」という目標設定疑問を持ち、意義ある行事かどうかを検証する。(PDCAサイクル) ②H30の反省を元に、精選できる行事や精選できる内容について共通理解を持ち、必要に応じ精選・削減を行う。	
3	校内組織の見直し	○週1回の企画委員会を業務改善委員会としているが、時間がなく、突っ込んだ話し合いができていない。 ○一部の教職員に過度な負担がかからないように、年度当初に校内分掌を複数の目で確認している。	○校内に業務改善委員会を設け、学期に1回業務の見直しと改善点について話し合いを持つ。	①校内企画委員会が業務改善委員会を兼ねることとし、校務分掌に位置づける。 ②H30年度の改善点を元に具体的改善策を職員会議で提案し、決議する。	
4	業務の効率化	○大型コピー機オルフィスが導入されていることや支援員が2名いることで、事務的、生徒指導的な負担が軽減されている。また学校掲示板を利用して、伝達事項を共有することで業務の効率化が図られている。しかし、事務仕事が多岐にわたるため、多忙感は拭えない。 ○用務員が配置されていないことで、教職員が連絡業務や環境整備業務までこなさなくてはならない。	○支援員は実質1.5人なので、実質2人にしていただきたい。また、使い勝手の良い校務システムを導入していただきたい。 リモートで自宅でも仕事ができるシステムの導入が望ましい。 ○用務員を配置していただきたい。	①現在の状態をより効率化するための方策を探る。また、支援員や用務員の配置について、引き続き市に要望する。 ②教育事務の精選を行う。やらなくても良いものはやめる。見直すべきものは見直し、何の考えも無く前年踏襲をすることはしない。	
5	部活動の負担軽減	○現在のところ、どの部活動も顧問の複数配置がなされている。部活動の年間予定を提出し、土日どちらか一日を休むように計画している。 ○外部指導者は1校1名ということで、バドミントン部に配置されている。	○部活動の適正な活動により、練習効果も上がり、大会等でも結果を出すとともに、教職員の負担を軽減する。土日は必ず一日休むことになるので、家族とともに過ごす時間を増やすことができる。	①部活動の年間計画を提出をしてもらい、管理職が適正な運営状況の点検および指導を行う。 ②引き続き部活動外部講師の要請を行うとともに、効果の上がる練習法を工夫する。	
6	地域人材の活用	○保護司や消防士の方にお話をいただくなど、地域人材を活用した取組は行っている。しかし、現在のところ本校では地域人材の有効活用をすることで業務改善に生かすような取り組みはなされていない。	○地域人材のデータベース化を推進し、必要に応じて学校運営に関わっていただく。そして、将来的にはCSの学校応援団に繋げていく。	①PTA組織を有効に使いながら、学校運営を支えてくれる地域人材を探す。また、職場体験のデータとしても地域で協力してくれる事業所をデータベースとして年々更新していく。 ②職場体験も含め、地域の方で学校に協力して下さる方のリストづくりと、組織作りを行う。 ※それ自体が負担とならない程度に。	
7	検証の仕方	○H30年度は、「教員の多忙化軽減意識改革のための自己評価リスト10項目」を学期に1回実施してきた。その結果、少しずつではあるが教職員の意識が変わってきたように思う。	○「教員の多忙化軽減意識改革のための自己評価リスト10項目」が全職員に理解され、実行されるようになる。	①「教員の多忙化軽減意識改革のための自己評価リスト10項目」を学期に1回実施し、教職員の意識改革を行う。 ②H30年度と比較して意識が向上しているか検証する。	
8	きずなの日	○「きずなの日」を月に2回年間行事予定の中に位置づけ、部活動や会議等をしない日を設定している。しかし、定時退勤日とはなっておらず、普段できない仕事をする日となってしまう。	○「きずなの日」には、部活動や会議等は行わず、生徒とふれ合う時間を作るとともに、定時退勤ができる。	①月に2回「きずなの日」を設け、定時退勤を目指す。管理職や学年主任等が率先して、早く退勤できるように努める。 ②「きずなの日」と行事との関係を見直し、H31年度の年間行事予定を立案する。	

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村教育委員会へ提出する

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった